

運動やスポーツの習慣化 を図るための方策と 体力調査の結果について

令和7年2月12日(水) 15時～17時
県庁新館7階大会議室
保健体育課

1. 滋賀県の方策 (第3期滋賀県スポーツ推進計画)

施策 『子どもの運動・スポーツ活動の充実』

施策目標

- 全ての子どもが大人になっても楽しめるスポーツに出会い、体を動かす楽しさを実感し、継続して取り組める環境をつくる。

展開方策

(1) 子どもの運動（遊び）・スポーツ活動の機会の拡大

- 幼児期の運動遊びの充実
- 小・中学生の体力向上

(2) スポーツ少年団の育成

- スポーツ少年団活動の充実
- 指導者の確保・資質の向上

展開方策

(3)小・中学校における体育・保健体育の授業改善

- ▶ 授業内容の充実
- ▶ 指導力の向上
- ▶ 望ましい生活習慣の定着

(4)中学・高校生の運動機会の充実

- ▶ 運動部活動の充実
- ▶ 指導者の育成
- ▶ 運動部活動の地域連携・地域移行（中学校）

2. 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」について

- 国内最大のスポーツの祭典で、国内トップレベルの競技に触れることができる絶好の機会。
- 観戦を通して勇気や感動もらったり、「やってみたい」という気持ちの芽生えや、スポーツへの興味・関心の高まり。
- 子どもたちはもとより県民の皆さんのスポーツを「する」、「みる」、「支える」の大きなきっかけに。
 - 子どもたちの参画や観戦への取組
 - ・国スポ障スポ教室（小学高学年と中1対象。手話歌やスポーツ体験等）
 - ・学校観戦(会場での観戦や応援)、都道府県応援団
 - ・競技会場に設置する歓迎のぼり旗の作成
 - ・競技運営補助員としての参画（高校生が中心）
 - ・開催機運盛り上げの各種イベント等でのスポーツ体験 等



2. 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」に関連した取組

○『国スポ障スポ教室』

小学校、中学校を対象にし、手話歌の体験など両大会への興味・関心の向上とともに運動やスポーツの多様な関わり方などを学んでいます。



国スポ障スポ教室

○開催1年前イベント『みんなのスポーツFestival』

開催日：令和6年11月16日

会場：平和堂HATOスタジアム

参加者：家族連れなど約3,000人

<参加者の声>

- ・色々なスポーツや試合を観てみたいと思った。
- ・新しい競技場で走ることができて良かった。
- ・やったことがないスポーツを体験できて楽しかった。等



競争体験



スポーツクライミング

2.しがスポーツ大使交流推進事業について



しがスポーツ大使交流推進事業とは

滋賀県ゆかりのトップアスリートやスポーツチームと県民との交流を推進するため、スポーツ振興や地域活性化を目的とした事業を行う団体が「しがスポーツ大使」を招へいする際に要する経費の一部を補助する制度です。



しがスポーツ大使は40人と10団体（令和6年4月1日現在）

大橋悠依（水泳）、木村敬一（水泳）、山中慎介（ボクシング）、
我孫子智美（陸上）、伊藤みき（モーグル）、宇田秀生（パラトライアスロン）、
滋賀レイクス（バスケットボール）、東近江バイオレッツ（野球）など

＜実施内容＞

小学校でのふるさと学習や総合的な学習の時間の授業講師、
人権集会での講演、スポーツ指導教室、親子かけっこ教室 など

3. 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

(1) 概要 (対象: 小学校5年生・中学校2年生)

体力・運動能力調査

- 測定項目: 8種目 (握力、50m走、長座体前屈など)
- 目的: 体力の現状把握と運動能力向上の方策検討

運動習慣等調査

- 内容: 1週間の運動時間、スクリーンタイム、運動意識など
- 目的: 体力との関連性を分析し、改善策を策定

(2) 結果

体力調査

- 小学校5年生女子: 体力合計点が全国最下位
- 中学校2年生: 昨年度比で男女ともに体力合計点が向上
- 種目別: 小5女子は全種目で全国平均を下回る
中2男子は上体起こしや立ち幅跳びが全国平均を上回る

(2) 結果

生活習慣アンケート

- 運動時間: 男子は増加、女子は減少
- スクリーンタイム（4時間以上）: 小中学校とも増加
- 運動意識: 「運動が好き」「体育が楽しい」と答えた割合は増加



(3) 課題

- ▶ 体力調査: 持久力の低下が顕著
- ▶ 生活習慣: 女子生徒の運動時間減少
- ▶ スクリーンタイムの増加が運動不足の一因

(4) 今後の取組

授業改善

- 児童・生徒が「わかった」「できた」を実感し、体育・保健体育の楽しさを感じる授業展開を目指す。
- 体育科・保健体育科主任研修会や外部講師・指導主事による学校訪問で、効果的な授業づくりの指導・助言を実施。
- 外部講師による実技研修会やモデル授業で体育授業の指導力向上を図る。

(4) 今後の取組

運動の習慣化

- 幼少期に安全な運動遊びを通じて体力の基盤を築き、
運動意欲を育成。
- 小学校「子どもの体力向上委員会」が中心となり、「健やかタイムプラン」を計画・実施。
- 教育情報誌やホームページで運動に関する情報を発信し、家庭・地域での運動遊びを推進。
- 「湖っ子チャレンジランキング」を実施し、インターネットで種目の記録を共有して運動習慣の形成と体力向上を促進。

まとめ

- 滋賀県における国スポ、障スポ、インターハイ開催を契機に、スポーツへの関心と参加機会を拡大し、子どもたちが健やかな体を育む環境を整備することが重要である。
- 学校、家庭、地域団体等が連携し、幼児期からの運動やスポーツに対する愛好的態度の育成に努める必要がある。

講師紹介

びわこ成蹊スポーツ大学 教授 黒澤 寛己 氏

【専門分野】

- ▶ スポーツ教育学
- ▶ スポーツ政策学

【主な研究テーマ】

- ▶ 部活動の指導方法と教育効果
- ▶ 児童・生徒の体力向上と運動習慣の形成
- ▶ 学校体育・運動指導者の育成
- ▶ 地域社会におけるスポーツ振興への貢献

【業績と貢献】

- ▶ 黒澤教授は、元京都市立高校教諭の経験を活かした、児童・生徒の体力と運動習慣に関する調査・研究を通じ、全国の教育機関やスポーツ団体と連携し、体育教育の質向上に尽力しておられ、また、部活動などを通じた持続可能な運動機会の確保に向けた政策提言も行い、社会的影響力を高めておられます。

【所属委員会】

- ▶ 彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会 会長
- ▶ 多賀中学校の部活動のあり方および地域連携に係る検討協議会 会長
- ▶ 大津市中学校部活動地域移行検討懇話会 委員
- ▶ 部活動の地域移行に関する協議会(滋賀県) 委員